

## 「N を通じて」と「N を通して」について

趙 海城 (明星大学 人文学部)

### On the Japanese Compound-Postpositions: "N wo tsuuzite" vs. "N wo tooshite"

ZHAO Haicheng (Meisei University)

#### 1. はじめに

以下の例は泉原 (2007 : 362) より引用したものである。a 文では、「通して」が自然で、b 文では「通じて」が自然であり、両者は置き換え不能とされている。

- a. 私たちは、居ながらにして、世界中の情報を、インターネットを+通して/×通じて、手に入れることができる。
  - b. ハッカーたちは、ウィルスに感染されたファイルが送りこめるインターネットを+通じて/×通して、ユーザーのシステムを破壊していく。
  - a. 大自然のもとで、汗を流しながら、一緒に働いた経験を+通して/×通じて、ふたりは生涯かわらぬ友愛をもちつづけた。
  - b. 戦場で、血みどろになりながら、一緒に戦った経験を+通じて/×通して、ふたりは生涯かわらぬ友愛をもちつづけた。
- a、b 両者の違いについて、泉原 (2007 : 363) では以下のように分析している。

A+を+通して+B: A を+媒介/手段+として、単純明快/公明正大+に B が行われる場合に  
使われる

A+を+通じて+B: 媒介/手段+とした A が、公にできない秘密のものであったり、不正な  
ものであったりする場合に使われる

つまり後者は「内緒/内輪/内密/秘密裏/裏やコネを使った/おおっぴらにできない/隠しておきたい」という話し手の気分が反映される場合に多用される。逆に言えば、前者で「後ろ暗い/やましい+ところはない」といった気持ちを表すことができる。

また、「時間的地理的一貫性」を示す以下の用例における両者の違いについて、泉原 (2007 : 363) では「ほとんど話し手の好みの問題になり、固有日本語、つまり訓読みの和語が好きな人は、前者「~を+通して」を使い、音読みの漢字語が好きな人は、後者を使うといった傾向があるだけのように思われる。」と述べている。

- ・このあたりは、一年/四季+を+通して/通じて+花が咲き乱れる。
- ・彼女は、一生/生涯+を+通して/通じて+伝道に身を捧げた。

果たして、「+通して」「+通じて」が使われる文には上記のような話し手の気分の違いがそれぞれ反映されているのか、また「時間的地理的一貫性」(泉原用語)を示す用例において、「+通して」を使うかそれとも「+通じて」を使うかは話し手の好みによるものなのか。このような疑問を持って、本稿では、「N を通じて」「N を通して」を取り上げ、前接名詞 N の違いを中心に、両者の相違点を探りたい。なお、本稿では「N を通じて」「N を通して」の具体的な意味・用法のズレの部分に立ち入らない。また、両者の使用に影響する

ものと思われる後続述語成分についても触れない。

## 2. 先行研究

上記泉原(2007)以外に、以下のような研究が見られる。

**森田・松木(1989)**では、「格助詞の働きをするもの」の下位項目に「仕手・仲介・手段・根拠・原因を示す」を挙げている。その中で「を通して」「を通じて」<sup>1</sup>を取り上げて説明している(pp.20～21)。

◇人物や物事を仲立ちとして何かを行うことを表す表現で、「によって」より間接的である。“～を経由して”“～を手段として”の意を表す場合もある。

- ・映画を通して都会生活に憧れたこの娘の素朴な夢は……
- ・書物を通じて得た知識や情報を……

◇「を通して」「を通じて」はほぼ同意で相互の入れ換えが可能であるが、次例を見ると、「を通じて」の使用範囲のほうが多少狭いようである。

- ・学生の生態を通して＜を通じて＞日本の教育を論じている。

◇連体格の用法としては、「を通しての」「を通じての」がある。

- ・文通を通して＜を通じて＞の五年間の恋が実った。

また、「起点・終点・範囲を示す」項目の中で「を通じて」<sup>2</sup>を取り上げ、「にわたって」とともに記述している(pp.34～35)。

◇場所や期間がある範囲全体に及ぶことを表す表現である。

- ・その基底を成す人間性とでも言うべきものは諸民族を通じてほぼ同一であるらしい事……

◇「を通じて」はさらにこの用法を一步前進させて、物事がある期間継続して行われることを表現する用法があるとしている。

- ・このようなことは人類の歴史を通じていつも時代にも見られたことである。

◇「を通じて」の連体格は「を通じての」である。

- ・日本列島を通じての帰巢本能に駆られた民族大移動も……

**グループ・ジャマシイ(1998)**では、「を通して」「を通じて」を以下のように説明している。

【とおして】(pp.315～316)

◇Nをとおして＜仲立ち＞：人やものごと、動作を表す名詞などを受け、「それを仲立ちや手段にして」という表示を表す。それによって知識や経験などを得ることを述べるのに使う。

- ・私たちは友人を通して知り合いになった。
- ・実験を通して得られた結果しか信用できない。

◇V-ることをとおして：動詞の辞書形を受けて、上の1と同様の意味を表す。和語の動詞を受けるのが普通で、「学習する」「研究する」のような漢語の動詞の場合は、1の表現を使って「学習／研究をとおして」のように言うほうが一般的である。

<sup>1</sup> この他に「によって、により、によると、によれば、をもって、でもって、にして、につき」を取り上げている。

<sup>2</sup> この他に「からして、をはじめ、に至るまで、にかけて、を通じて、にわたって」を取り上げている。

・子供は、学校で他の子供と一緒に遊んだり学んだりすることを通して、社会生活のルールを学んで行く。

◇N をとおして<期間中>：期間を表す語を受けて、「その期間中」「期間の範囲内」といった意味を表す。期間中ずっと継続的に行為が行われたり、期間内に断続的に生じる出来事などを表す。

- ・5日間を通しての会議で、様々な意見が交換された。
- ・この一週間を通して、外に出たのはたったの2度だけだ。

【をつうじて】(pp.650～651)

◇NをつうじてV：「…を経由して」という意味。何かを経由して情報を伝えたり関係ができたりするということを述べる時に使う。伝わるのは情報・話・連絡などで、交通手段は使えない。書き言葉的。「…をとおして」とも言う。

- ・その話は山田さんを通じて相手にもつたわっているはずだ。

◇Nをつうじて：時間を表す名詞に付いて、「ある一定の期間とぎれることなくずっと」という意味を表す。書き言葉的。「…をとおして」とも言う。

- ・その国は一年をつうじてあたたかい。
- ・このあたりは四季をつうじて観光客のたえることがない。

庵功雄他(2001)では、複合格助詞として「手段を表す表現」の中で、「によって、をもって」とともに、「を通じて」を取り上げている(pp.23～24)。

◇行為や情報伝達を媒介するものを表す。

- ・マネージャーを通じてその俳優の出演を依頼した。
- ・そのニュースは通信社を通じて海外に発信された。

◇変化の原因となる経験を表す用法もある。

- ・留学生との交流 {を通じて／によって} 彼は視野を多いに広げた。

◇節全体を手段とする場合もある。

- ・ボランティア活動に参加することを通じて多くのことを学んだ。

◇「を通じて」に似た形式として「を通して」がある。

- ・代理人を {〇を通じて／〇を通して} 球団に移籍を打診した。

また、「空間的・時間的範囲を表す形式」の中で、「にかけて、にわたって」とともに、「を通じて」を取り上げている(p.34)。

◇期間や空間を表す名詞について「～の間ずっと」という意味を表す。「を通して」もほぼ同じ意味で用いられる。

- ・熱帯地方では1年を通じて寒暖の差があまり大きくない。
- ・北陸自動車道は雪のため全線を通じて50キロ規制になっている。

先行研究を概観すると、両者には「仲立ち／媒介／手段」「期間・空間」の用法に分かれて議論されていると言えよう。また、両者は書き言葉的であるとまとめられる。

### 3. 用例採集資料と調査対象、使用傾向

資料：「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(以下 BCCWJ と呼ぶ)を使用した。BCCWJ は語数が約1億490万語で、今回これらすべてを検索対象とした。

調査対象：「中納言」を利用して、「短単位検索」を行った。語彙素を「通す」「通ずる」に

指定し、キーを名詞に指定することにより、「Nを(通し/とおし/透し/とほし)て」、「Nを(通じ/つうじ)て」をすべて検索した。各レジスターの割合及びヒットした用例数は表1の通りである。

BCCWJは13のサブコーパスからなっているが、本稿では、「出版・書籍」「図書館・書籍」「特定目的・ベストセラー」を同じ「書籍」とみなして一つにまとめた。したがって、表1のように、本研究では11のサブコーパスをレジスターとして、考察対象の出現頻度を見る。なお、本稿では前接名詞Nは複合辞の直前に位置する語とする。

「Nを通して」は4416例<sup>3</sup>で、Nの異なり語数は1613個だった。「Nを通じて」は5015例<sup>4</sup>で、Nの異なり語数は1655個だった。

Nが5回以上出現した「Nを通して」は2333例で、Nの異なり語数は147個だった。同じくNが5回以上出現した「Nを通じて」は2933例で、Nの異なり語数は190個だった。本稿ではNが5回以上出現した用例を分析対象とした。

表1 各レジスターの語数%、「通して」「通じて」の用例数、%、100万語当たりの頻度<sup>5</sup>

	書籍	雑誌	新聞	ブログ	教科書	広報誌	国会会議録	知恵袋	白書	法律	韻文	合計
%	60.3	4.1	1.0	9.8	0.9	3.6	4.9	9.8	4.5	1.0	0.2	100.0
通じて	3021	119	87	188	60	279	326	61	852	22	0	5015
%	60.2	2.4	1.7	3.7	1.2	5.6	6.5	1.2	17.0	0.4	0.0	100.0
頻度	48.4	28.1	81.9	18.6	64.6	74.3	63.9	6.0	181.8	20.4	0.0	48.4
通して	3286	187	49	175	86	307	73	159	93	0	1	4416
%	74.4	4.2	1.1	4.0	0.0	1.9	7.0	1.7	3.6	0.0	0	100.0
頻度	52.6	44.1	46.2	17.3	1.1	22.9	60.2	7.2	33.9	0.0	4.4	42.6

### <sup>3</sup> 【N+を通して 4416例】の検索条件式

キー: 品詞 LIKE "名詞%" AND 後方共起: (語彙素読み = "ヲ" AND 品詞 LIKE "助詞-格助詞%") ON 1 WORDS FROM キー AND 後方共起: 語彙素 = "通す" ON 2 WORDS FROM キー AND 後方共起: (語彙素読み = "テ" AND 品詞 LIKE "助詞-接続助詞%") ON 3 WORDS FROM キー WITH OPTIONS unit="1" AND tglWords="20" AND limitToSelfSentence="1" AND endOfLine="CRLF" AND tglKugiri="|" AND encoding="UTF-8" AND tglFixVariable="2"

### <sup>4</sup> 【N+を通じて 5015例】の検索条件式

キー: 品詞 LIKE "名詞%" AND 後方共起: (語彙素読み = "ヲ" AND 品詞 LIKE "助詞-格助詞%") ON 1 WORDS FROM キー AND 後方共起: 語彙素 = "通ずる" ON 2 WORDS FROM キー AND 後方共起: (語彙素読み = "テ" AND 品詞 LIKE "助詞-接続助詞%") ON 3 WORDS FROM キー WITH OPTIONS unit="1" AND tglWords="20" AND limitToSelfSentence="1" AND endOfLine="CRLF" AND tglKugiri="|" AND encoding="UTF-8" AND tglFixVariable="2"

<sup>5</sup>各サブコーパスの%は中納言サイトによるものと違う。

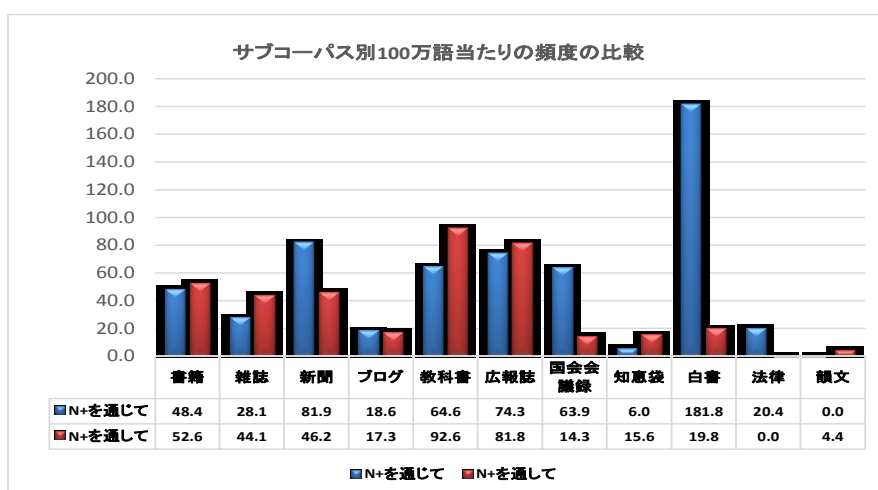


図1 サブコーパス別の100万語あたり「Nを通じて」「Nを通して」の出現頻度

表1に示しているように、100万語当たりの頻度は、「Nを通じて」は48.3語で、「Nを通して」は42.5語で、「Nを通じて」のほうはやや多いが、大きな違いは見られなかった。しかし、表1、図1が示すように、サブコーパス別に見ると、出現の偏りが見られた。まず、「Nを通じて」の用例が多いのは「白書」「新聞」「広報誌」「教科書」「国会会議録」である。この5つのサブコーパスはどちらかというと、より書き言葉的であると言える。法律は「Nを通して」が0語であるのに対し、「Nを通じて」の出現頻度が20.4語である。法律は書き言葉的で、漢語を多用すると思われる。以上から、「Nを通じて」が書き言葉的であることを裏付けていると言える。

一方、「Nを通して」の出現が多いのは「教科書」「広報誌」「書籍」である。雑誌は多ジャンルの内容に分かれ、一概に書き言葉的あるいは話し言葉的とは言えない。

「Nを通じて」「Nを通して」両方出現頻度が低いのは「ブログ」「知恵袋」であった。知恵袋、ブログは出版される印刷物とは異なり、一般の人が自由に書き込んでおり、「書き手と読み手という相互交渉の場」という意味で「会話」の一種とみなすことができる。(秋月2007)」という特徴を持っている。これらの書かれた発話、会話的要素の強いレジスターには両者の出現頻度が低い。

#### 4. 前接名詞の意味的分布

『分類語彙表』<sup>6</sup>の意味分類を使って、「Nを通して」と「Nを通じて」における前接するNの意味的分布を見た。『分類語彙表』にない語句はもっとも適切な意味番号を付与した。Nが多義語の場合、できるだけその文脈に合った意味分類をした。

##### 4. 1. 「Nを通して」だけに前接する名詞

先ほど触れたように、「Nを通して」におけるNの出現頻度が5回以上のものは147個で、2333例であった。この147個のNの意味分類は91種類で、そのうち、「Nを通して」だけの意味分類は35種類で、Nの異なり語数は45個で、用例数は677例であった。表2は「Nを通して」だけに前接する名詞の意味分類及び名詞例を示している。

<sup>6</sup>国立国語研究所(2004)『分類語彙表一増補改訂版』大日本図書

表2 「Nを通して」だけに前接する名詞の意味分類及び名詞例【大項目意味ごと】

大項目意味	中項目意味	前接名詞の意味コード	前接名詞の意味分類	前接名詞	出現数
自然物及び自然現象	自然	1.5010	光	映像(9)、	9
	身体	1.5601	頭・目鼻・顔	目(246)、眼(25)、口(18)、	289
		1.5603	手足・指	腕(5)、手(5)、	10
		1.5604	膜・筋・神経・内臓	胎盤(6)、	6
		1.5605	皮・毛髪・羽毛	皮膚(6)、	6
		1.5120	空気	空気(8)、	8
	物質	1.5151	風	風(7)、	7
		1.5161	火	火(47)、	47
人間の主体	家族	1.2130	子・子孫	子ども(6)、	6
	人間	1.2020	自他	自分(5)、	5
	成員	1.2410	専門的・技術的職業	通訳(7)、	7
人間活動・精神及び行為	言語	1.3100	言語活動	主張(6)、	6
		1.3151	書き	記録(5)、	5
	行為	1.3410	身の上	独身(8)、	8
	心	1.3001	感覚	五感(5)、感覚(11)、	16
		1.3020	好悪・愛憎	鑑賞(6)、	6
		1.3070	意味・問題・趣旨など	問題(7)、	7
		1.3071	論理・証明・偽り・誤り・訂正	筋(17)、	17
	生活	1.3331	食生活	食(7)、食事(5)、	12
		1.3371	旅・行楽	旅(6)、	6
	待遇	1.3611	裁判	裁判(7)、	7
生産物及び用具	衣料	1.4200	衣料・綿・革・糸	糸(10)、	10
		1.4240	そで・襟・身ごろ・ポケットなど	袖(11)、	11
	機械	1.4610	鏡・レンズ・カメラ	カメラ(7)、レンズ(28)、眼鏡(5)、フィルター(20)、	60
	資材	1.4120	木・石・金	ガラス(14)、	14
		1.4160	コード・縄・綱など	ワイヤー(5)、紐(5)、	10
	住居	1.4440	屋根・柱・壁・窓・天井など	壁(8)、窓(17)、	25
	食料	1.4300	食料	食べ物(5)、	5
抽象的關係	空間	1.1741	上下	下(5)、	5
		1.1750	面・側・表裏	画面(6)、	6
	形	1.1800	形・型・姿・構え	姿(10)、	10
		1.1830	穴・口	穴(13)、	13
	時間	1.1635	朝晩	闇(5)、	5
	様相	1.1300	様相・情勢	状況(6)、	6

	量	1.1951	群・組・対	シリーズ(7)、	7
合計					677

「Nを通して」だけに前接する名詞には和語が多いことが分かる。Nの異なり語数45個中、2字漢語サ変可能名詞は6例だけであった。また、Nの意味分類を見ると、「人間活動主体」は「子供、自分、通訳」のような特定の人間を指していることが分かる。また、「人間活動—精神及び行為」は「私的な活動、感覚」を表す名詞が多いことが分かる。よって、「Nを通して」は4. 2. で見る「Nを通じて」と比べれば、どちらかという私的な、具体的な事柄について述べる傾向にあると言えよう。さらに、「生産物及び用具」のグループは「糸、ワイヤー、紐」のような「移動させられるもの」、「袖、レンズ、ガラス」のような「通過場所」を表すもので、この種類の名詞が前接する「を通して」は独自の意味で、「を通じて」にない用法である。

#### 4. 2. 「Nを通じて」だけに前接する名詞

「Nを通じて」におけるNの出現頻度が5回以上のものは190個、2933例であった。190個の名詞の意味分類は103種類で、そのうち、「Nを通じて」だけの意味分類は47種類、Nの異なり語数は62個で、用例数は493例であった。表3は「Nを通じて」だけに前接する名詞の意味分類及び名詞例を示している。

表3 「Nを通じて」だけに前接する名詞の意味分類及び名詞例【大項目意味ごと】

大項目 意味	中項目 意味	前接名詞の 意味コード	前接名詞の意味分類	前接名詞	出現 数
自然現象	自然	1.5030	音	音(7)、	7
	天地	1.5210	天体	衛星(7)、	7
		1.5250	川・湖	川(5)、	5
人間活動の主体	機関	1.2710	政府機関	政府(5)、	5
		1.2720	公共機関	JICA(6)、	6
		1.2750	国際機構	国連(6)、	6
	公私	1.2540	都会・田舎	地方(14)、	14
		1.2550	政治的区画	県(7)、	7
	社会	1.2620	現場	窓口(7)、	7
		1.2630	社寺・学校	学校(19)、大学(8)、	27
	成員	1.2411	管理的・書記的職業	大臣(5)、	5
		1.2412	実業・商業	業者(11)、	11
行為	経済	1.3710	経済・収支	投資(8)、予算(5)、	13
		1.3760	取引	取引(6)、貿易(6)、	12
		1.3770	授受	提供(9)、	9
	言語	1.3133	会議・論議	議論(13)、会議(7)、会談(6)、協議(12)、審議(8)、話し合い(8)、	54
		1.3135	批評・弁解	評価(6)、批判(7)、	13

		1.3161	目録・暦	番組(5)、	5
	交わり	1.3541	奉仕	サービス(5)、	5
		1.3542	競争	競争(18)、試合(5)、	23
		1.3551	戦争	戦争(10)、	10
	事業	1.3801	生産・産業	開発(9)、	9
		1.3833	興行	開催(8)、	8
		1.3850	技術・設備・修理	整備(10)、	10
		1.3852	扱い・操作・使用	利用(9)、	9
	心	1.3040	信念・努力・忍耐	努力(10)、	10
		1.3061	思考・意見・疑い	検討(9)、	9
		1.3081	方法	手段(12)、	12
		1.3082	制度・慣例	制度(17)、	17
	待遇	1.3600	支配・政治	改革(8)、	8
		1.3620	運営	運営(5)、管理(5)、	10
		1.3630	人事	選挙(12)、	12
		1.3650	救護・救援	ODA(5)、援助(7)、	12
		1.3682	賞罰	促進(7)、	7
抽象的関係	作用	1.1510	動き	運転(6)、	6
		1.1523	巡回	サイクル(6)、	6
		1.1550	合体・出会い・集合など	結合(5)、	5
		1.1560	接近・接触・隔離	接触(9)、	9
		1.1581	伸縮	拡大(15)、	15
		1.1583	進歩・衰退	強化(7)、向上(5)、低下(5)、	17
	事柄	1.1040	本体・代理	他(7)、	7
	時間	1.1600	時間	時間(5)、	5
		1.1650	順序	前半(6)、	6
		1.1670	時間的前後	前後(10)、	10
	存在	1.1220	成立	形成(6)、	6
	類	1.1112	因果	影響(6)、効果(5)、	11
		1.1131	連絡・所属	連鎖(6)、	6
合計					493

「N を通じて」だけに前接する名詞には2字漢語が多い(63 個中 36 個が2字漢語サ変可能名詞)ことが分かる。和語に比べ、漢語は書き言葉的文章により多く現れるため、「N を通じて」は「N を通して」より書き言葉的であることと伺える。また、N の意味分類を見ると、「人間活動主体」は「政府、JICA、国連」のような公的機関(の擬人化)を指しており、また、「人間活動—精神及び行為」は「公的な活動」を表す名詞が多いことが分かる。よって、「N を通じて」は4. 1. で見る「N を通して」と比べれば、どちらかというと公的な活動について述べる傾向にあると言えよう。

収集した用例全体の N の語種も確認したところ、前に来る漢語の割合は「通して」は56.8%で、「通じて」は71.7%であったのに対し、前に来る和語の割合は「通して」は28.1%



で、「通じて」は 11.9%であった。全用例においても、「を通じて」は「を通して」より漢語との共起例が多句、より書き言葉的であることが分かる。

表4 前接名詞の語種

行ラベル	Nを通して		Nを通じて	
	Nの語種別個数	割合	Nの語種別個数	割合
外来語	535	12.1%	604	12.0%
漢語	<b>2510</b>	<b>56.8%</b>	<b>3595</b>	<b>71.7%</b>
記号	7	0.2%	30	0.6%
固有語	88	2.0%	161	3.2%
混種語	36	0.8%	29	0.6%
和語	<b>1240</b>	<b>28.1%</b>	<b>596</b>	<b>11.9%</b>
総計	4416	100.0%	5015	100.0%

#### 4. 3. 「Nを通じて」と「Nを通して」両方に前接する名詞

Nが5回以上出現した用例の中で、「Nを通じて」と「Nを通して」両者に共通するものは79語あった。以下の通りである。

インターネット、こと、コミュニケーション、スポーツ、テレビ、ネットワーク、ふれあい、ブログ、プロセス、マスコミ、メディア、もの、ラジオ、ルート、一生、運動、音楽、過程、会、会社、会話、絵、学習、活動、管、関係、期、期間、機会、機関、教育、局、訓練、経験、研究、言葉、交換、交渉、交流、行為、行動、作業、作品、作用、参加、仕事、四季、市場、指導、事業、事件、事例、時代、実験、実践、取り組み、取材、手、人、世界、世紀、生涯、生活、全体、全編、組織、体、体験、対話、代、調査、電話、日、年、年間、分析、本、遊び、歴史

上記共通するNの79語中、出現回数の開きが5回以上あった項目を図2で示す。

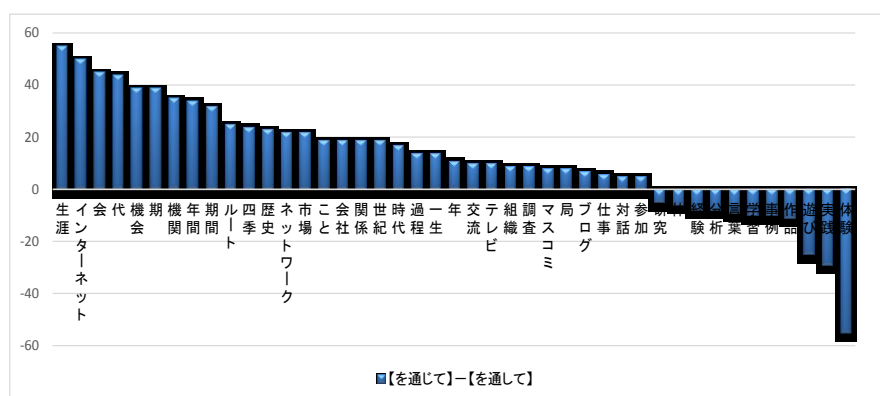


図2 「Nを通じて」と「Nを通して」に共通するNの比較（出現頻度の開き $\geq 5$ 回）

図2が示すように、「Nを通じて」が多い項目は「生涯～参加」の32語で、「Nを通して」が多い項目は「体験～研究」の11語である。「Nを通じて」の前接名詞Nは「インターネット、ネットワーク、テレビ、マスコミ、ブログ」など、情報伝達の媒体を意味するもの、

「生涯、期、年間、期間、四季、歴史、世紀、時代、一生、年」など期間を意味するものが多いことが分かる。それに対し、「Nを通して」の前接名詞Nは「体験、実践、遊び、作品、事例、学習」などが多く現れ、主体の積極的な持続行為により、何かを実現し、あるいは得られることを表していることが分かる。

## 5. 終わりに

本稿では、BCCWJ を使って「N を通じて」と「N を通して」に前接する名詞Nの異同を手掛かりに、「N を通じて」と「N を通して」の違いを探った。その結果、以下のことが明らかになった。

第一、傾向として、先行研究でも指摘されているように、「N を通じて」「N を通して」の両方が書き言葉的ではあるが、「N を通じて」がより書き言葉的であることが検証できた。第二、「N を通じて」が情報伝達の媒体としての用例、期間を表す用例が多く、それに対し、「N を通して」は主体の積極的な持続行為により、何かを実現し、あるいは得られることを表す用例が多いことが分かった。第三、「N を通じて」は公的な活動について述べる傾向にあり、「N を通して」はどちらかというと私的な、具体的な事柄について述べる傾向にあることが分かった。この第三の違いについてはコーパスのレジスターに影響されている可能性もあり、今後、別のデータで検証する必要がある。

「通す」「通じる」の本動詞の用法を削除せずに分析した。先に削除したうえで見るべきだった。また、両者の具体的な意味用法、および後続述語を検討する必要もある。今後の課題としたい。

## 参考文献

- 秋月高太郎 (2007) 「ブログに書かれること、書かれないこと—ブログ「会話」の含意—」、『日本語学 特集ブログのことば』、26 : 4、 pp. 46-56.
- 庵功雄、高梨志乃、中西久美子、山田敏弘 (2001) 『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』、スリーエーネットワーク.
- 泉原省二 (2007) 『日本語類義表現使い分け辞典』、研究社.
- グループ・ジャマシイ (1998) 『教師と学習者のための日本語文型辞典』、くろしお出版.
- 国立国語研究所 (2004) 『分類語彙表—増補改訂版』、大日本図書.
- 花蘭悟 (2004) 『「N を通して」と「N を通じて」』、『留学生日本語教育センター論集』、30、 pp. 17-31、 東京外国語大学  
(<http://repository.tufts.ac.jp/bitstream/10108/20968/1/jlc030002.pdf> よりダウンロード可能)
- 村田年 (1993) 「中・上級表現文型研究『…を通して/…を通じて』」、『日本語と日本語教育』、22、 pp. 1-32、 慶応義塾大学
- 森田良行、松木正恵 (1989) 『日本語表現分型：用例中心・複合辞の意味と用法』、アルク.

## 用例出典及び検索ツール

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ) (2011) 国立国語研究所  
短単位検索 Web アプリケーション「中納言」URL: <https://chunagon.ninjal.ac.jp/search>